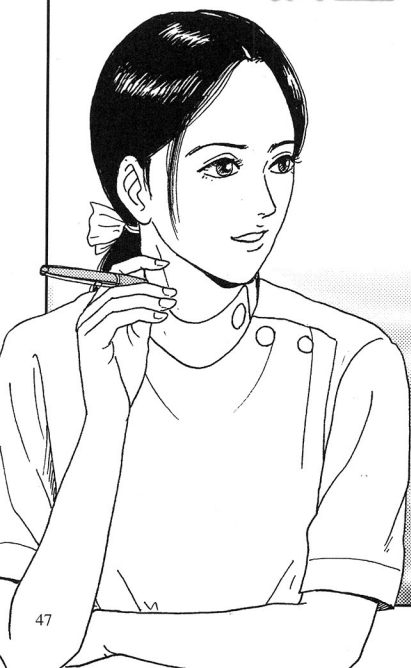


嗅覚・味覚障害

の 検査・処置



きゅうかくしょうがい
嗅覚障害

にんげん かんかく
人間の感覚は

ごかん
五感

い
と言われます

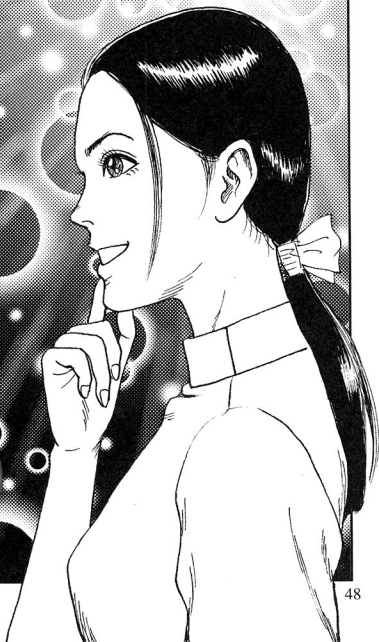
しかく
視覚

ちゅうかく
聴覚

きゅうかく
嗅覚

みかく
味覚

しょうかく
触覚
のことです



これらのうち

視覚・聴覚はドイツ語で

geistnahe Empfindung

「精神に近い感覚」と呼ばれ



思考・思索に

関与することが多いと

されています

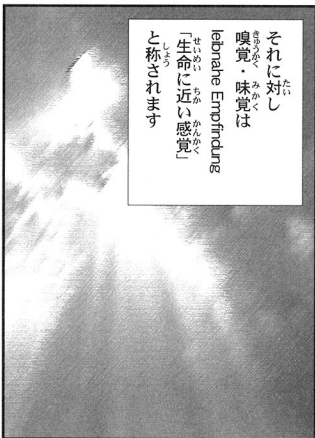
それに対し

嗅覚・味覚は

leibnahe Empfindung

「生命に近い感覚」

と称されます



人間が

生命を維持する

基礎的な部分に

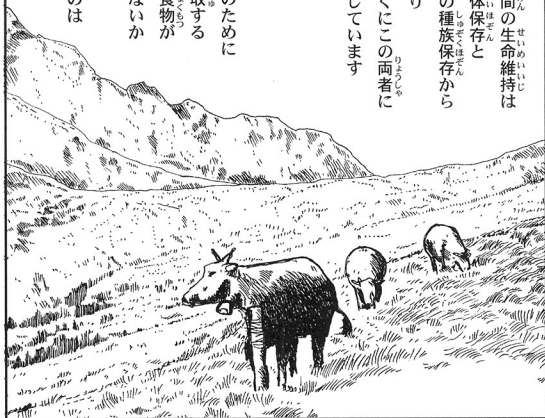
関わっている

からでしょう



確かに人間の生命維持は
自己の個体保存と
自分たちの種族保存から
成っており
嗅覚はとくにこの両者に
深く関与しています

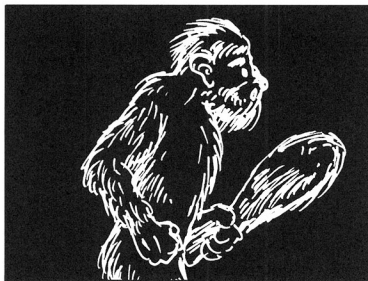
個体維持のために
食物を摂取する
その際に食物が
腐っていないか
どうか
確認するのは
嗅覚です



また
種族保存の目的で異性を探す
この場合にも
フェロモンなどの匂い物質
(においの素という意味で
嗅素と呼びます)
を介して関与している
それはやはり嗅覚です



たほうきゅうかくじこ
 他方で嗅覚は自己と
 じことませかい
 自己を取り巻く世界とを
 むすび
 結びつけている
 げんしてきかんかく
 もっとも原始的な感覚と
 か
 考えられています



ブルーストが
 うしなときもと
 「失われし時を求めて」
 なか
 の中で

マドレーヌを
 くちふくしゅんかん
 口に含んだ瞬間
 かお
 お菓子の香りとともに
 すさ
 過ぎ去った
 こじだいじょうけい
 子ども時代の情景が
 たいかん
 体感として
 突然蘇って来る
 とうぜんよみがえ
 そんなエピソードを記しています





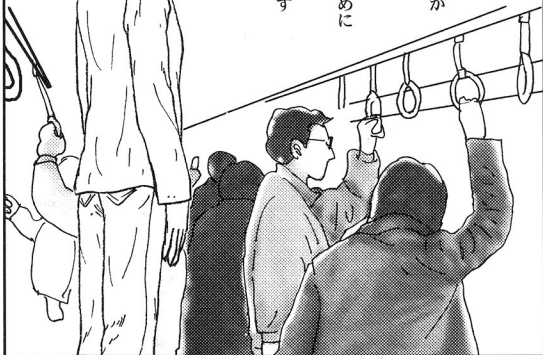
このような現象は
ごかん なか
五感の中でも
きあうかく
嗅覚に
とくゆう
特有なものです



じんせい とじよう
人生の途上で
じこ せかい
自己と世界との接し方を
かくりつ
確立せねばならない思春期に
みづか からた
自らの体から
いや はっせい
嫌なにおいが発生していて
たしゃ じぶん
他者が自分をうとんじる
もうそう
そんな妄想の
しょう
生じることがあり

じこしゅうもうそう
自己臭妄想と呼ばれます

この妄想は例えば
「電車に乗っていたら
隣に立っていた男の人が
急に電車を降りた
あれはこの私の体から
嫌な臭いが出ているために
それを避けたのだ」
そんな形で表現されます



これも嗅覚という
自己と他者を結びつける
感覚の独自性と
無関係ではなさそうです



もう一つの
嗅覚の特徴として
疲労現象があります



これは
かなり強い匂いの
そばにいても
最初こそその匂いが
キツく感じられるものの
やがてその匂いが
気にならなくなる
いわば
慣れみたいな現象ですが

索敵行為が
その目的かと思われま



つまり
 嗅覚を通じて動物は
 敵の行動を察知します
 そしてこのためには
 常に新しい匂い
 敏感でなければなりません
 常在する匂いに囚われず
 自分のテリトリーに
 侵入する敵の匂いを
 一瞬にして捉える
 嗅覚の疲労現象は
 そういった目的には
 実に合理的と言えます



これも嗅覚が
 生命の維持に
 密接に関連している
 証かも知れません

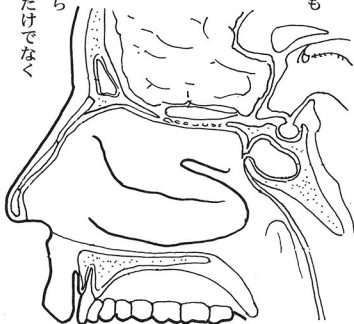


この嗅覚きゆうかくを感じ取るのは
鼻内びないの位置的には
目と目の間の鼻粘膜びねんまくです



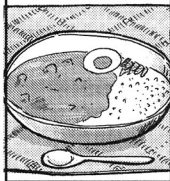
嗅粘膜きゆうんまくと
呼ばれるここは
ちようどわさびを
食べたときに
強烈なツーンと来る
感覚かんかくを覚える
あの部位ぶいのすぐ傍なわらに存在そんざいします

今の例えや
プールのストの
エピソードからも
判るわかるように



嗅覚きゆうかくは鼻はなの穴あなから
入はいって来る嗅素きゆうそだけでなく
口腔内こうくうないで発生はつせいし
後鼻孔こうびこうを通じて
鼻腔びくうに到達とうたつする嗅素きゆうその
両方りょうほうを感じ取かんっています

ぜんしゃ
前者ももちろんそうですが
とりわけ後者は
しょくじ ふうみ せんさい
食事の風味を繊細に
あじわ じゅうよう
味わい分けるのに重要です

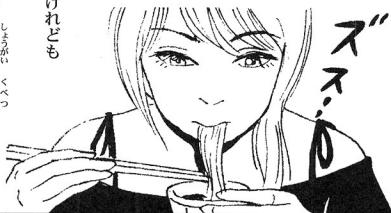


たとえ
例えば
そば ほおば
蕎麦を頬張ったとき
のど越しに
そば ぜつみよう かお
蕎麦の絶妙な香りを楽しむ
それこそ
こうびこう とお
後鼻孔を通った
そば きゅうてい じんじんじよう
蕎麦の嗅素の独擅場です



そんな理由で
きゅうかく
嗅覚が
しょうがい
障害されると
まるで味覚まで
みかく
だめになった
ような
きがします

みかく
味覚そのものには
いじよう
異常が無いのですけれども
この状態を
じゅうたい
純粹な味覚そのものの障害と区別
して
ふうみしょうがい
風味障害と
なづ
名付けることがあります



ところで

嗅覚障害の原因ですが

圧倒的に鼻そのものの

疾患が多いようです

アレルギー性鼻炎

急性もしくは慢性の副鼻腔炎

そして風邪に起因する

急性鼻炎などがそうです

いつも
この役



前二者では

鼻粘膜がひどく腫れ

嗅素が嗅粘膜まで

届かないために

嗅覚障害が生じます

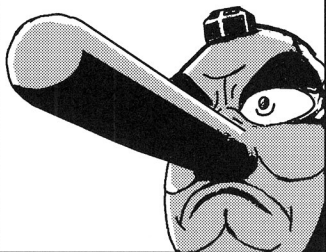
急性鼻炎では

鼻づまりの他に

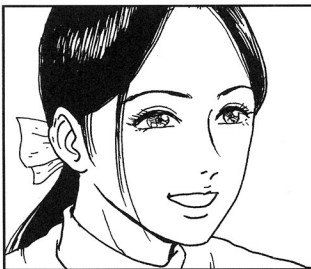
ウイルスが直接嗅神経を

冒している

可能性もあります

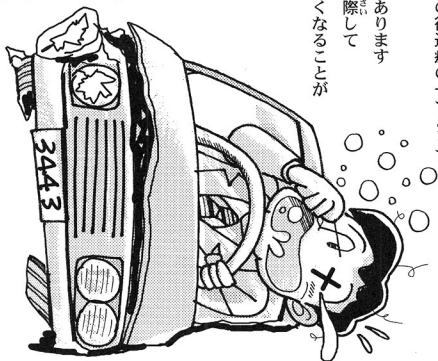


なお
 ぜんにしゃ
 前二者でも放置されて
 えんしょう
 炎症が長引くと
 きょうしけい
 嗅神経がダメージを負い
 なお
 治りにくくなります



また交通事故での後遺症の一つとして
 きやうかくしょうがい
 嗅覚障害の
 あら
 現われることがあります
 こことうふがいしょう
 殊に頭部外傷に際して
 においの判らなくなることもが
 おお
 多いようです

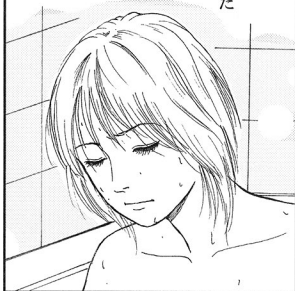
きやうしんけい
 嗅神経は
 ほかに
 他の視神経や
 ちやうしんけい
 聴神経などの
 のうしんけい
 脳神経と異なり
 だいのう
 大脳そのものの
 いちぶが
 一部が
 ずがいてい
 ずがいてい
 頭蓋底に緊密に
 は
 張り付くように
 びない
 鼻内へ延びています





このため
 いわば「たわみ」が少なく
 頭部外傷のとき
 すぐに傷付き易い
 そんな構造的な
 特徴が関係します
 交通事故による嗅覚障害が
 直りにくいのも
 そのせいかと思われま

先に嗅覚は生命の維持に
 密接な関連があると述べました
 したがって
 生命力の低下と考えられる
 デプレッション
 (うつ病)のときに
 匂いがぶくなることも
 あります

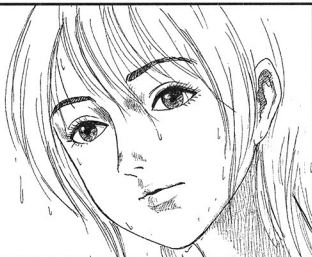


デプレッションの状態を
 形容するのに
 「世界がすべて
 冷たい石に
 なってしまった」
 という言い方をしますが





匂いも味もしない
 生命力の感じられない境遇を
 よく表現していると思います

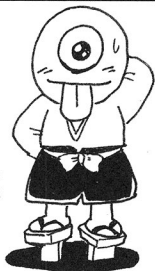


つまり
 生命を維持する食物を
 目の前にしても
 食欲が湧きにくく
 種族保存の対象である
 異性を探す元気も無い
 そういう意味でしょうか



全身的な不定愁訴
 (捉えどころの無い
 漠然とした体調の悪さ)
 があり
 それに伴って匂いが
 判りにくくなったら
 このデプレッションも
 考慮すべきです

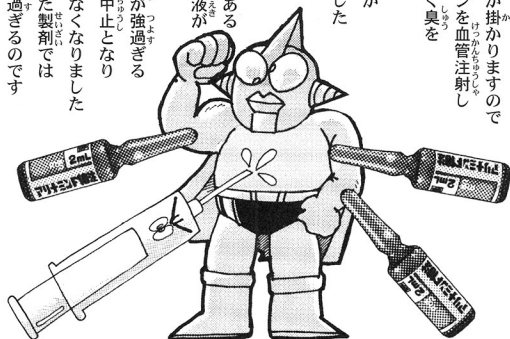
嗅覚障害の検査法として
 甘い匂いやこげた匂いなど
 5種類の基準臭を濃度別に
 紙片に付け被験者の
 鼻入口部に提示し
 匂いが判るかどうか
 判定する方法があり
 オルフアクトメーターと
 呼ばれます



オラには臭がなかった……

この方法は手間が掛かりますので
 以前はアリナミンを血管注射し
 発生するにんにく臭を
 嗅ぎ分けさせる
 静脈性嗅覚検査が
 良く行なわれました

ところが
 ビタミン製剤である
 アリナミン注射液が
 皮肉なことに
 そのにんにく臭が強過ぎる
 との理由で製造中止となり
 本法は実施できなくなりました
 改善(?)された製剤では
 にんにく臭が弱過ぎるのです



嗅覚障害の治療は

局所疾患による障害が多いことから

嗅粘膜部に薬剤を塗布する方法が主です

この薬剤としては

鼻粘膜収縮剤と

ステロイド剤が使用されます

嗅粘膜は

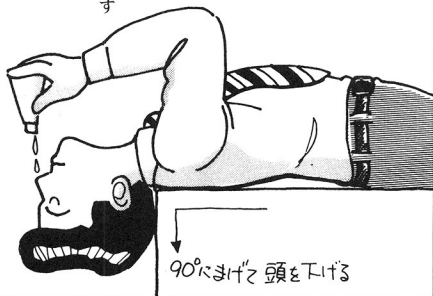
鼻内前方の目と目の間に

位置しますので

ベッドの端に仰向けとなつて

懸垂頭位をとり

薬剤を嗅粘膜めがけて点鼻します



局所疾患による

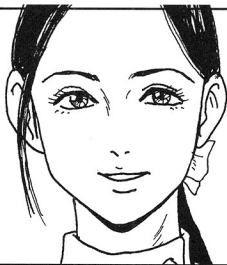
嗅覚障害ならば
早期開始の本法で

ほとんどが
改善するようです

もちろん

嗅覚障害を長引かせ

こじらせてしまつて
からではダメですが



この
嗅覚障害は
そんなに
重大でない
疾患のように
軽んじられがちですが

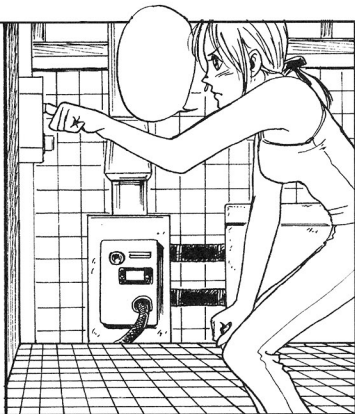


その実結構不自由です

食物が
くさっているか
どうか判らない



ガス漏れがあつて
危険な状態でも
気が付かないなどの
生命の危機に
関する不便



コーヒ^のを飲んでも
に^が苦いお湯^ゆとしか
かん感じられない
あ^じけ
味気なさ



に^{ほん}し^ゆ日本酒を嗜^{たし}んでも
よ^ばただ酔^よっ払^{はら}うだけの
ぶ^ずい不^ず粋^いさ



あ^{こう}の高^か価^かな
ま^{まつ}た^け松茸^まだ^けって
か^かお香^かりが^かな^かけ^りや……
そ^れは
た^{たん}単^{たん}なる^{たん}きの^{たん}こ^にに
な^なつ^ちち^やい^ます^よね



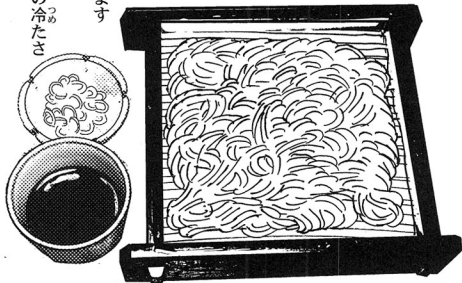
味覚障害

みかく ひんご
味覚と一言で言うとき
じつ
実はいくつもの
ふくざつ かんかく
複雑な感覚の
そつこうかく
総合覚のことを
かんが
ひつくるめて考えています

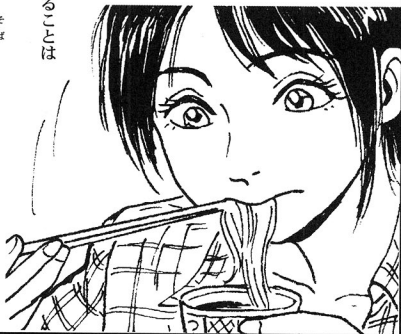


たと
例えば
なつ あつ さか
夏の暑い盛りに
そば
ざる蕎麦を
あじ
味わう
ばあい
場合のことを
そうぞう
想像して
み
見ましょう

そば
蕎麦のざると
ちよこ
そば猪口が
わじ
私たちの
めえ きよう
目の前に供されます
かん
まず感じるのは
そば
蕎麦とそばつゆの冷たさ
おんど
つまり温度です



暑い夏の
盛りに
ざる蕎麦を
頂く
その最初の
楽しみが
この冷たさで
あることを
考えれば
温度が
味覚を左右することは
判ります
ついで頬張った蕎麦の
舌や頬の粘膜に与える快い圧迫感
(深部知覚と呼ばれる感覚に
関係しています)を感じます



そう言えば
そもそも「頬張る」
という言葉自体が
この感覚を見事に
言い表わしています

空腹のときには
この圧迫感だけでも
うまいとの

感慨を覚えす

もちろん

舌を滑る蕎麦の触覚も
味わいのうちです



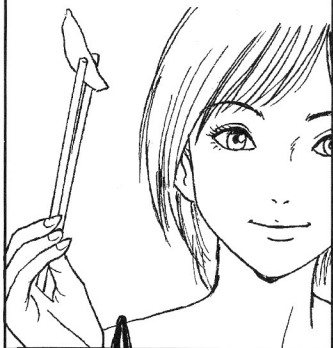


そして蕎麦そのものの味
そばつゆの旨味の
すばらしさは味覚それ自身です
蕎麦を口に含んだ瞬間に
感じる馨しさだつて
蕎麦の醍醐味ですが

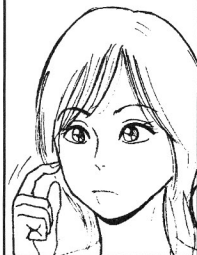


これは前項で述べたように
後鼻孔を通じた嗅覚のなせるわざです
そして蕎麦を飲み込むときの
“のどごし”の味わいと来たら蕎麦好きには
堪えられない楽しみです
この“のどごし”の味わいは
味覚 触覚 深部知覚 後鼻孔を通じた
嗅覚の複数の感覚です

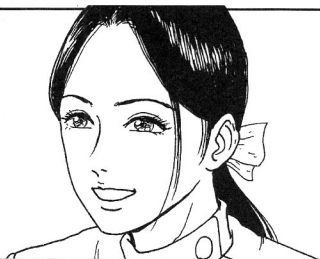
このように味覚は
口腔全体で感じ取る
感覚であり
その内訳も
実に豊富です



ですから
例えば嗅覚の障害でも
味わいが害なわれ
味覚がおかしくなった
ような気がします



これを風味障害と
呼ぶことは
前項で触れました



医学的には
味覚を論ずる場合
単純に味だけ
つまり甘味 塩味 酸味
苦味 旨味を対象とします

しかし味覚障害を
論じるに際しては
味覚の持つ豊富な意味合いを
念頭に置いておくべきです
医学的な味覚以外の障害でも
味覚全体が障害されたように
感じることは多いからです

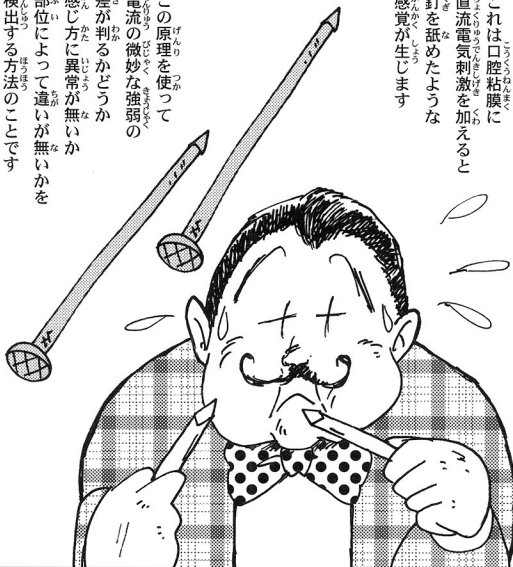
一方 味と言うには
感覚的に違和感がある
かも知れませんが

医学的に味覚障害を
検出するために
電気味覚という現象を
利用することがあります



これは口腔粘膜に
ちよくりゆうでんきしげきくわ
直流電気刺激を加えると
くぎな
釘を舐めたような
かんかくしやう
感覚が生じます

この原理を使つて
でんりゆう びじやう きまづやく
電流の微妙な強弱の
さわか
差が判るかどうか
かん かつ いじやう
感じ方に異常が無い
ぶい
部位によって違いが無い
けんしやう
を検出する方法のことです



みかく
味覚という感覚の
はばひろ
幅広さを裏付ける
エピソードとして
しょうかい
ご紹介して
おきます



なお

味覚は狭い意味でも

口腔全体で感じ取る感覚です

つまり味覚は

3種類もの

異なる神経によって

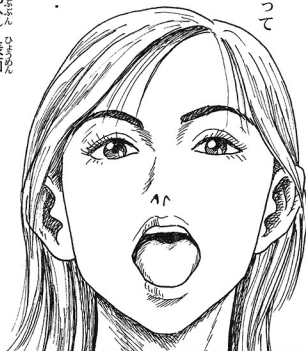
支配されており

舌表面・舌の奥・
軟口蓋

(口腔内の天井部分) 表面

即ち口腔全体で

感じ取るので



ところで味覚は

嗅覚と並んで

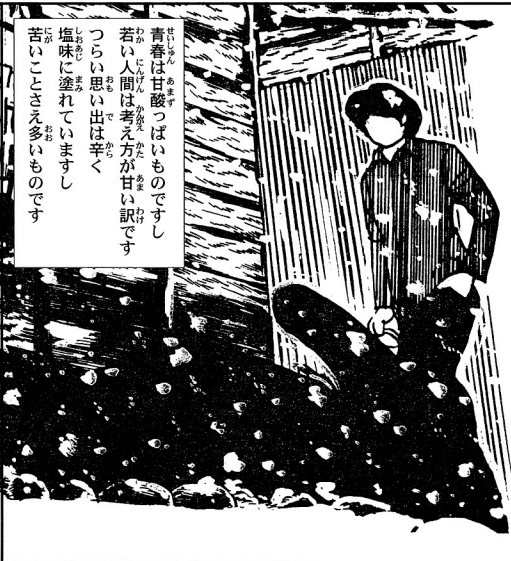
leibnache Empfindung

生命に近い感覚と

呼ばれます



それと関連してか
人生の有り様を
味覚で形容することが
時にあります



青春は甘酸っぱいものですし
若い人間は考え方が甘い訳です
つらい思い出は辛く
塩味に塗れていますし
苦いことさえ多いものです

諦観^{ていかん おぼ}を憶^{おも}え
ると
その滋味^{しじみ}を
理解^{りかい}するようになります



また
人生^{じんせい おも}が思い通り^{おも}に
行かぬことを知り



このような絶妙^{ぜつみょう}な比喩^{ひよ}も
味覚^{みかく きゅうかく}が嗅覚^{きゅうかく}とは
また違った意味^{いみ}で
生命^{せいめい}に近い感覚^{かんかく}
であることから
生^{しょう}じているように思われます



ところで 視覚や聴覚は

だいのうひつ 大脳皮質において

検知

（何か見える

何か聞こえることが

判るとの意味です）に

関わる領野と

認知

（見えているものが何なのか

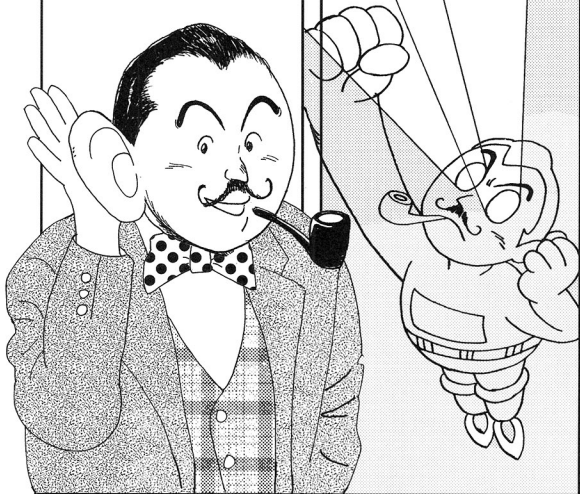
判別できる

聞こえているのが何なのか

判定できる

という意味です）

とに携わる領野とが異なります





したが
従って

のうそであらう のうけつかんしやうがい

脳卒中（脳血管傷害）などで

だいのうひしつ しやうがい

大脳皮質が傷害されると

物は見えるが

それが何なのか判らない

おと き

音は聞こえるけれども

どういふ音か判別できない

といった現象が

み 見られたりします



それに対し
嗅覚や味覚は
検知・認知の領野が別なのか

あるいは
分化していないのか
よく判っていませんでした



そこで私は

味覚障害について

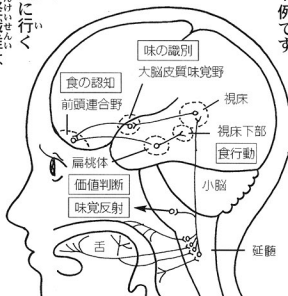
中枢神経疾患との関連を
研究しました

嗅覚障害については

残念ながら機会が無く
検討できませんでした



たすう ちゆうすうしんけいしつかん
 多数の中樞神経疾患について
 さまさま けんさく こころ
 様々の検索を試みていますが
 こんかい たいしやう ししやう
 今回の対象は視床の
 脳疾患7例です



なぜなら
 だいのうしつ
 大脳皮質に行く
 みかく しんけいせんい
 味覚の神経繊維は
 ちやうぜんしやう
 その直前に視床と
 よ
 呼ばれる脳の一部を
 すべて つうか
 全て通過しています

したが
 従ってこの疾患で味覚障害が生じれば
 しやうがい せいしつ だいのうしつ
 その障害の性質は大脳皮質のそれを
 だいべん
 代替していることになります



わたし
 私のこの研究で
 たいしやう ししやう
 対象となった視床疾患は
 のうしゆやう
 脳腫瘍の5例と
 れい
 脳血管障害2例でした



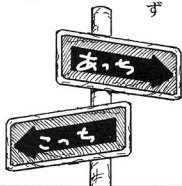
すると興味深いことに
 脳腫瘍5例中の2例と
 脳血管障害2例において
 甘味・塩味・酸味・
 苦味に関する検査で
 「味のすることは判るが
 何の味が判定できない」
 との回答が得られました
 これは
 味覚の検知は可能だが
 認知はできない
 という意味です



つまり
 味覚においても
 視床の障害では
 検知域値と
 認知域値と
 とは
 異なる訳です



そして
 それはとりもなおさず
 大脳皮質で
 味覚の検知領野と
 認知領野とが
 わかれていることを
 指し示しています



味覚も
視覚や聴覚と
同様の
神経支配形式を
とっていることが
世界で初めて
立証されたの
です

PON!

祝
世界初



こういった
特殊な味覚障害はともかく
一般に多く見られる味覚障害は
血清垂鉛の低下によるものです

血清垂鉛の低下には

特発性と呼ばれる

原因不明のものもありますが

ほとんどは

垂鉛の摂取不足か

過剰排泄によっています



摂取不足というのは
例えばお年寄りで
食が細くなった方などで
栄養が偏りがちの場合に
発生します

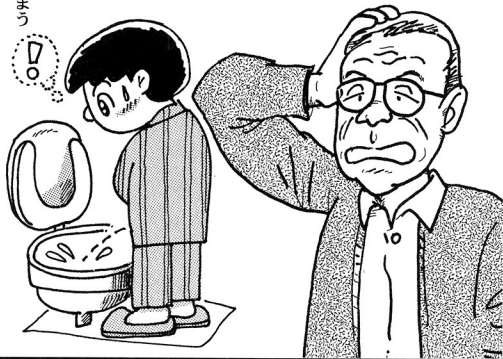
また過剰排泄とは

薬剤性味覚障害の背景に
よく存在するのですが

内服したある種の薬剤が
体外に排泄される際に
亜鉛と結合したまま

一緒に体から出てしまう
そのために

体内の亜鉛が不足してしまう
そんな現象を言います



これらのうち
薬剤性味覚障害は
最近とくに多く
報告されるように
なってきました



その治療として

当然亜鉛の補充が

必要ですが

現在亜鉛の

内服補充には

硫酸亜鉛が使用されています

薬剤性味覚障害の場合には

それと共に原因となる薬剤を

中止して頂く必要があります



けれども

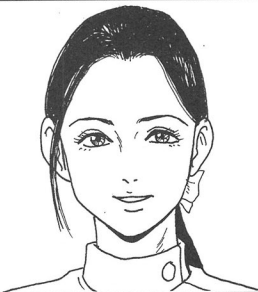
障害の原因となる薬剤は

多岐にわたります

心当たりの方は

一度主治医にて

ご相談ください



嗅覚障害のとき同様
（きゅうかくしょうがい じょうよう）

デブレッションでは

味覚も
（みかく）

障害されます
（しょうがい）

生命の維持が
（せいめい いじ）
困難になる
（こんなん）
という訳です
（わけ）



それにしても

味覚の傷害された
（みかく しょうがい）

人生は
（じんせい）

正に「味気ない」
（まさ 「あじけい」）

もの

でしょうね



予告

ほのかさんが忘れていた(?)
花子さんと
水野カメラマンの
恋の行方は?



なんと
恋と仕事の
板挟みから
顔面神経麻痺
になって
しまった花子さん！
さあ どうする？ どうする！

前人未踏 驚異の一大耳鼻科絵巻
オールスター総出演「疾風怒濤」の大団円！



乞うご期待！

なお、幕府の蝦夷地警備の命令のもと、
仙台藩が北海道白老町陣屋を置くよう
決定した三好監物のお話もご紹介。

味気ない世界の中心で

制作スタッフ

監修・解説・総指揮

三好 彰

原作／山形三吉

作画監督・構成／西原雅夫

作画統括構成／たかはしよしひで

協力

ただひろし

佐々木智香

鈴木潤子

制作協力

山形大学漫画研究会OB

漫画同人ホップ



嗅覚・味覚障害解説

三好耳鼻咽喉科クリニック院長
南京医科大学国際鼻アレルギーセンター主任教授
中山医科大学耳鼻咽喉科客員顧問
蘇州眼耳鼻咽喉科医院名誉院長

三好 彰

はじめに……88

12 脳神経……88

嗅覚……93

嗅覚障害……99

味覚……104

味覚障害……114

おわりに……117